

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育分野に関する理論と支援の展開	前期	月6	0
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-牛田 洋一	1年	講義の前後の時間およびE-mailにて受け付けています	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現在の学校における臨床心理的支援は、スクールカウンセラーがその中心にいます。スクールカウンセラーは臨床心理士の活躍の場として大きな位置を占めています。本講座では学校臨床で問題なるテーマを取り上げ、支援にすぐに役立つ実践家の知識を習得していくこと	自由で活発な議論の場を提供していきたいと思います。
到達目標	講義の中では限定されたテーマで議論を重ねていきますが、テーマに対する理解だけではなく、各自がテーマに関する発表の準備と議論を重ねていく過程のなかで、今後の学校心理臨床実践の場で、すぐに役立つ人材になることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の目的・役割分担など	
	2	教育分野での今日的課題：不登校の理解と支援	文献検索と課題発表の準備
	3	教育分野での今日的課題：不登校の理解と支援	同上
	4	教育分野での今日的課題：いじめの理解と支援	同上
	5	教育分野での今日的課題：いじめの理解と支援	同上
	6	教育分野での今日的課題：緊急支援の理解と方法	同上
	7	教育分野での今日的課題：緊急支援の理解と方法	同上
	8	教育分野での今日的課題：発達障害の理解と支援	同上
	9	教育分野での今日的課題：発達障害の理解と支援	同上
	10	教育分野での今日的課題：ストレスマネジメントの実際	同上
	11	教育分野での今日的課題：アンガーマネジメントの実際	同上
	12	教育分野での今日的課題：その他の問題（自傷行為などその他の問題）	同上
	13	事例検討（1）	文献検索など議論のための準備
14	事例検討（2）	同上	
15	教育分野における理論と支援の展開総括	同上	
16	試験（口頭試問）	発表・議論を合わせて評価	
	テキスト・参考文献・資料など		
	それぞれのテーマに沿って適宜紹介します。入手困難の文献については印刷配布します。また、各自が発表テーマに沿った文献を検索し、講義の中で紹介してください。		
	学びの手立て		
	各自がテーマに沿った知見を検索、検討しレジュメを作成し発表して頂きます。各自の発表に対して、受講者同士の積極的な議論を望みます。大学院では自ら積極的にテーマを追求していく姿勢が求められます。		
	評価		
	各自の発表・議論への参加（70%） 最終の口頭試問（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	教育分野で役に立つ臨床心理の専門家となるためには、本講座でのテーマのみならず、臨床心理学、心理学全般の知識を広く身に付けていくことがいくことが必要となります。

※ポリシーとの関連性 ・老年期の変化や特徴について理解を深め、老年期の好ましいあり方等について、内外の緒論をもとに考察する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	高齢者福祉特論	後期	月7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の中で受け付ける ・オフィスアワー時の相談を歓迎する 	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や文献研究、あるいは討論を通して、老年期のあり方に関する考えをまとめることによって、自らの論の構築を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の講義で示される文献、課題等について、事前に読み込み検討した上で、毎回の講義に臨むことを希望する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ①老年期に対する理解を深め、課題等の明確な把握 ②自らの人間観をまとめ、老年期に対する論の構築

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目 講義計画・目標・すべきことの理解 2回目 老年期の理解 3回目 老健期研究の到達点（医学等） 4回目 老年期研究の到達点（精神医学） 5回目 老年期研究の到達点（心理学） 6回目 緒論の復習と整理 7回目 受講生による文献研究報告 8回目 討論とまとめ 9回目 歴史に見る老年期（古代～近代） 10回目 現代社会と老年期の社会学的考察 11回目 高齢者福祉施策と高齢者の現状 12回目 高齢者に対する実践の原理と現状 13回目 緒論の復習とまとめ 14回目 受講生による研究調査報告 15回目 まとめ（レポート課題の提示）
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の中で、適宜提示する。
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの論を支える明確な文献を見つけること ・示された課題に対する括弧たる意見を構築すること ・得たものと、今後得るべきものを明確に語れること
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の理解・質疑・文献研究・論の構築等の内容等を総合的に判断して評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの衆論テーマと関連することを期待する
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心の健康教育に関する理論と実践	前期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-滝 友秀	1年	授業終了後、またはメールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理の専門家として社会で活動する際に、対象は精神的な問題を抱えている方々とは限りません。問題を抱えている方への治療的に関わりだけでなく、問題を抱えていない方々への予防的な関わりも社会的なニーズとして増えてきています。そのような社会的要請に心の専門家として応えていくためにも、心の健康について理解を深め、健康教育を実践できることが必要と考えます。	心理学の学びには、一つだけの正解はないものだと思っています。常により良い答えや方法など模索し続けることが苦しくもあり、楽しい部分だと思っています。模索するためにも、まずは先人の知恵を理解するための学習が必要だと思っています。その知識をもとに、様々な状況でどのように考え・対処してゆくかを皆さんと一緒に模索出来たらと思っています。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心が健康であるとはどのような状態か”を理解し他者に説明できるようになる。 ・心の健康に寄与する諸理論（カウンセリング心理学・コミュニティ心理学など）の理解、心を健康を維持するために必要な知識や技法（ストレス対処技法など）を理解し、それらを他者に教育出来るような方略を考えることが出来る。 ・日々の生活を送る上でどのような時期にで不適応を呈しやすいかを理解し、それらを適応的に乗り越えられるための対処方法を考えること 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	今後の講義概要と流れの説明	
	2	第2～4週：心の健康教育とは（以下の内容を行う予定）	
	3	心の健康とは何か	
	4	心の健康教育を行う意義について	
	5	第5～8週：心の健康教育に関する理論の理解（以下の内容を行う予定）	
	6	カウンセリング心理学の理解	
	7	コミュニティ心理学の理解	
	8	学校心理学の理解	
	9	第9～13週：心の健康教育の内容（以下の内容を行う予定）	
	10	ストレスとストレスマネジメントの理解	
	11	ストレス対処方法の理解	
	12	ストレス関連障害について	
	13	発達課題やライフイベントについて	
	14	第14～15週：心の健康教育の実践について（以下の内容を行う予定）	
15	集団を扱うことについて		
16	試験日		

テキスト・参考文献・資料など
教科書の購入などは必要ありません。必要な書籍・文献などあれば、適宜お伝えします。

学びの手立て
各人が考えたことや感じたことなどを積極的に言語化して頂けたらと思っています。それらの意見をもとにお互いの意見や考えを深めていけたら良いと考えています。
講義は心の健康教育に関してですが、様々な分野に関連している内容を学ぶことになると思います。それぞれの関連領域に関して、ご自身で文献などを調べて頂くと、より講義でお伝えした内容の理解が深まると思います。
欠席する際は事前にご連絡頂くようお願いします。

評価
講義への出席状況を平常点とします。(15%)
必要に応じてレポートなどを出して頂く予定です。(35%)
レポートでは様々な文献を調べ、その上でどのように考えたか・理解したかをまとめて下さい。
講義の最後には、講義内容を踏まえた試験を行います。(50%)

学びの継続
次のステージ・関連科目
(1) 関連科目等について 関連科目：学校現場に関する講義、心理支援に関する講義 上位科目：精神医学・心身医学に関する講義、心理実践実習
(2) 次のステージ 実際の臨床場面で、これらの知識を活かして経験を積んで頂けると幸いです

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	1年	ptt510@okiu.ac.jp 又は授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	産業組織心理臨床に関する施策や法令、指針を学び、心理職に対する社会のニーズを理解する。産業組織心理臨床の支援内容や方法を理解し、心理職の組織への関り方について学ぶ。	産業組織心理臨床は、今後さらにニーズが高まる領域です。今後、皆さんには公認心理師又は臨床心理士として産業組織領域で活躍してほしいです。

到達目標	本科目を履修することで、産業組織心理臨床に必要な理論と実践を学ぶことができる。さらに、産業・労働分野に関わる公認心理師又は臨床心理士に必要な理論と支援内容・方法、今日的課題とその方法を学習することができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産業・労働分野に関する理論：社会背景及び産業心理臨床に求められるもの	配布資料の熟読と復習
	2	産業・労働分野に関する理論：労働関係法令・施策・指針	配布資料の熟読と復習
	3	産業・労働分野に関する理論：背景となる理論・モデル	配布資料の熟読と復習
	4	産業・労働分野に関する理論：支援現場と活動内容	配布資料の熟読と復習
	5	産業・労働分野での支援の内容及び方法：個人アセスメント（キャリア開発含む）	配布資料の熟読と復習
	6	産業・労働分野での支援の内容及び方法：ストレスチェック制度と心理職の役割	ストレスチェック
	7	産業・労働分野での支援の内容及び方法：産業保健スタッフとの連携・関係機関へのリファー	配布資料の熟読と復習
	8	産業・労働分野での支援の内容及び方法：組織へのアプローチ・予防アプローチ	配布資料の熟読と復習
	9	産業・労働分野での支援の内容及び方法：従業員支援プログラム（EAP）	EAPについて
	10	産業・労働分野での今日的課題とその対応：障害者雇用・就労支援	配布資料の熟読と復習
	11	産業・労働分野での今日的課題とその対応：ハラスメント対応	配布資料の熟読と復習
	12	産業・労働分野での今日的課題とその対応：自殺予防と危機介入	ハラスメント研修又は自殺予防研修
	13	心理職が行うハラスメント研修と自殺予防研修	配布資料の熟読と復習
	14	具体的支援例：組織に対するコンサルテーション	配布資料の熟読と復習
15	具体的支援例：事例検討	配布資料の熟読と復習	
16	まとめ		

テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。 参考資料： 新田泰生、足立智昭（2016）「心理職の組織への関り方」誠信書房（税抜2,000円） 木村周（2010）「キャリア・コンサルティング理論と実践」社団法人雇用問題研究会 ジェームス M オハーパー編 内山喜久雄・島悟 監訳（2005）「EAPハンドブック」株式会社フィスメック
----------------	---

学びの手立て	①履修の心構え 配布資料を熟読し、授業の中で質問と意見を積極的に述べること。 ②学びを深めるために 講義学んだキーワードを再度調べて再学習すること。 学んだことをレポートにまとめ、発表すること。
--------	---

評価	レポートの提出（70%）、受講態度30%
----	----------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会状況の変化と組織のニーズを把握して、今後も産業組織心理臨床を学んでほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山入端 津由	1年	E-mail tyamanoha@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 非行・犯罪のある者に対する的確な鑑別診断技法の学習及び心理教育・臨床心理学的援助技法の習得を目指す。	メッセージ 日常的に社会で発生している多様な犯罪・非行について、これらを理解するための理論を学び、実際の事例を用いた面接資料、心理テスト結果、行動観察資料などを用いて、犯罪・非行のある者の資質鑑別を行い、その技能修得を目標とする。今日、臨床心理士には、犯罪・非行の適切な見立てと対応方針の策定が求められている。
	到達目標 ①わが国の犯罪事情、刑事政策（警察、検察、司法、矯正、保護）について知る。②犯罪・非行の心理学の理論を理解する。特に、暴力犯罪（性犯罪も含む）の理論と分析の仕方を学ぶ。また、ストレスと犯罪機制モデル、ホワイトカラー犯罪の分析モデル、など理論理解の上で、資質鑑別法について学ぶ。③犯罪・非行のある者に対する臨床心理学的支援方法について学ぶ。④精神鑑定の方法について、事例を中心に学ぶ。総じて、臨床心理士としての社会活動上、犯罪・非行のある者に対する理解と支援の基礎的な考え方と技能を身につけて、犯罪・非行臨床領域における臨床心理学的な有効な活動ができるような手法の修得を到達目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	
	2	非行・犯罪理論と非行・犯罪臨床	
		時間外学習の内容	
	3	社会と個人の相互作用過程における犯罪・非行分析	犯罪研究文献の講読
	4	非行・犯罪心理学と刑事政策（警察、検察、司法、矯正、保護）	犯罪・非行理論の事前学習
	5	資質鑑別の手続きと鑑別方法（半構造化面接、心理テストバッテリー）	犯罪・非行理論の事前学習
	6	資質鑑別と心理テスト法（ロールシャッハ、SCT、PFスタディ、バウムテスト）	平成27年版犯罪白書の事前講読
	7	資質鑑別事例の検討①	臨床面接法の事前学習
	8	資質鑑別事例の検討②	心理テストの事前学習
	9	資質鑑別事例の検討③	資質鑑別事例（宿題）の検討
	10	資質鑑別事例の検討④	資質鑑別事例（宿題）の検討
	11	資質鑑別事例の検討⑤	資質鑑別事例（宿題）の検討
	12	犯罪の少年年齢曲線と青少年の脳科学知見	青少年の脳科学文献の講読
	13	薬物依存と集団精神療法	自助グループ関連の文献講読
	14	精神鑑定 I	精神鑑定文献（指定文献）の講読
	15	精神鑑定 2	精神鑑定文献（指定文献）の講読
	16	まとめの討議及び総合評価	
	テキスト・参考文献・資料など		
	参考文献 1 大淵憲一 2010 犯罪心理学 培風館 2 大淵憲一 2016 紛争・暴力・構成の心理学 北大路書房 3 大淵憲一（編）犯罪理論 4 細江達郎 2012 図解犯罪心理学 ナツメ社 5 林幸司 2001 精神鑑定実践マニュアル 金剛出版		
	学びの手立て		
	①事例分析については、個人資料を扱うので、個人情報への守秘義務を遵守すること。②面接法、生活史分析、事例分析、質的分析、心理テスト分析の各分析法の基本点を修得する。③集団討議を中心に講義を展開する。発言内容、回数なども評価の対象とする。		
	評価		
	「鑑別事例の検討」（5回）については、毎回、「鑑別」レポートの提出を義務づけ、これを評価する。なお、評価得点の配分割合は、レポート70パーセント、討議における発言内容と回数を30パーセントとする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 資質鑑別法に関連して、他の臨床心理学科目も関連させて学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉原理特論	通年	月6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	1年	講義の中で受け付ける オフィスアワーの活用を歓迎する	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、現在の社会福祉政策や社会福祉実践に関わる基本的な部分に目を向け、福祉学の現状と今後の展望等について考察する。特に、社会福祉全体を支える基本的視点や実践の原理的な側面について、批判的に捉え直すとともに、福祉学に関わる諸理論への理解を深め、新たな地平の模索を試みる。</p>	<p>各課題について、日頃から関心を持ち、自主的に文献や資料の収集に努め、自分なりの視点の確立に心がけることが望ましい。</p>

到達目標	<p>① 講義修了後には、それぞれの課題について、事実やデータ、理論等に基づいたプレゼンテーションができるようになること</p> <p>② 特に、社会福祉の理論史、政策のながれと関連させながら説明ができるようになること</p>
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>一年を大きく5つに分け、以下のテーマに取り組む</p> <ol style="list-style-type: none"> 福祉学の学問的な位置づけと今後の展望 <ul style="list-style-type: none"> 学問とは何か、その成立要件とは何か等について考察する。 人間や社会に関わる諸学問ながれ、現状や課題等について理解する。 福祉学の学問的構造・位置づけ等について、自らのまとめを試みる。 社会福祉学の代表的理論の位置づけと課題について <ul style="list-style-type: none"> 日本における社会福祉学理論のながれと現状を理解する。 欧米における人間・社会に関する主な理論等と福祉学との関連を理解する。 諸理論と福祉学との関連においてまとめを試みる。 福祉国家の国際動向と日本のあり方 <ul style="list-style-type: none"> 福祉国家論の概要（ながれ・現状・課題等）を理解する。 いくつかの福祉国家の政策原理の課題等について考察する。 福祉国家の展望や課題等についてまとめを試みる。 社会福祉実践理論を今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉施策の対人実践の基本原則・理念等について理解する。（日本） 地域・社会に対する福祉施策理念等について理解する。 ソーシャルワークの本質・原理等について理解する。 社会福祉援助・ソーシャルワーク等の関連性等についてまとめを試みる。 21世紀の日本の社会福祉の動向と展望 <ul style="list-style-type: none"> 日本の戦前から戦後、また戦後の社会福祉政策の基本的視点等について理解する。 特に90年代等から現在に至る改革の変遷及びその基本的視点について理解する。 今後の日本の福祉国家として将来像・あり方等についてまとめを試みる。
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>*必要に応じて提示する。</p> <p>*必要に応じて提示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>講義中に提示された文献や資料を精読すること</p> <p>講義中の討論に積極的に参加すること</p>
	<p>評価</p> <p>*出席状況、レポートの提出状況とその内容、討論への参加とその内容および最終報告書の内容等をもとに総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>講義の中で提示する</p>
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者福祉特論	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	毎回の講義終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい 国内外の障害者施策の歴史的発展プロセスを踏まえた上で、障害学の研究成果を学び、議論を深める。受講生の関心に合わせた文献も取り扱う。	メッセージ 障害・障害者の理解に向けて学術的取組みをする。
	到達目標 障害学に関する主要論文を多数読むことができる。障害学の視点から社会を問い直すことができるようになる。	

学びの準備	ねらい 国内外の障害者施策の歴史的発展プロセスを踏まえた上で、障害学の研究成果を学び、議論を深める。受講生の関心に合わせた文献も取り扱う。	メッセージ 障害・障害者の理解に向けて学術的取組みをする。
	到達目標 障害学に関する主要論文を多数読むことができる。障害学の視点から社会を問い直すことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ①障害学に関連する文献や論文を読みながら障害学の特徴や学術的意義を理解する。 ②受講生の関心に添いながら関係文献や論文を読み、ディスカッションを重ねる。 ③レポートを作成し、発表する。 ④その他、研究会に参加するなど広く障害学の成果にふれる。
	テキスト・参考文献・資料など 随時、論文、資料、文献を紹介していく ①コリン・バーンズ他著杉野昭博他訳『ディスアビリティ・スタディーズ～イギリス障害学概論』、明石書店。 ②杉野昭博(2007)『障害学～理論形成の射程～』、東京大学出版会。 その他

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 随時、論文、資料、文献を紹介していく ①コリン・バーンズ他著杉野昭博他訳『ディスアビリティ・スタディーズ～イギリス障害学概論』、明石書店。 ②杉野昭博(2007)『障害学～理論形成の射程～』、東京大学出版会。 その他
	学びの手立て 障害学に関する文献および論文を多数紹介するので、それをしっかり読みましょう。障害学や障害者福祉に関する研究会に積極的に参加しましょう。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 随時、論文、資料、文献を紹介していく ①コリン・バーンズ他著杉野昭博他訳『ディスアビリティ・スタディーズ～イギリス障害学概論』、明石書店。 ②杉野昭博(2007)『障害学～理論形成の射程～』、東京大学出版会。 その他
	学びの手立て 障害学に関する文献および論文を多数紹介するので、それをしっかり読みましょう。障害学や障害者福祉に関する研究会に積極的に参加しましょう。

学びの実践	評価 ①事前学習課題の取り組み、②講義時の積極的参加の状況、③レポート内容を総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：学内外の情報保障の実践の場に積極的に関わり、演習で学んだことを活かしましょう。 関連科目：障害者に対する支援と障害者自立視線制度、障害学、相談援助の理論と方法、教職課程の諸科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害児（者）援助特論	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	1年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい この講義では、将来臨床心理士を希望する大学院生を対象に、「地域支援」や「ケースワーク・ソーシャルワーク実践」について、実践的な理解をすすめていくことを目的とする。精神科医療、児童福祉、障害福祉、発達障害児者支援、ひきこもり支援など、さまざまな分野において臨床心理士によるケースワーク・ソーシャルワークの具体的な実践の方法と知識について掘り下げていきたい。	メッセージ
	到達目標 閉ざされた・非日常的な専門的時空間において行われる心理臨床実践を学ぶ学生に、開かれた日常生活空間を想定した支援理論に加えて、具体的な事例を通じて学んで行く。事例は、多くの心理臨床場面に登場するダイアッド（二項関係的）なものではなく、多くの関係者や地域社会、そして制度との関連を想定したトライアッド（三項関係的）なものから、ケースワーク（ケースをコーディネートする力）にふれていきたい。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理臨床とソーシャルケースワーク (1)	
	2	心理臨床とソーシャルケースワーク (2)	
	3	心理臨床とソーシャルケースワーク (3)	
	4	資源と制度を学ぶ (1)	
	5	資源と制度を学ぶ (2)	
	6	資源と制度を学ぶ (3)	
	7	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（発達障害）	
8	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（発達障害）		
9	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（精神保健福祉）		
10	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（ひきこもり介入）		
11	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（児童福祉）		
12	支援制度をつくる、資源をつくる (1)		
13	支援制度をつくる、資源をつくる (2)		
14	地域事例から学ぶ (1)		
15	地域事例から学ぶ (2)		
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で指定して行く。		
	学びの手立て		
	評価 ① 3分の2以上の出席、② 授業中の課題、③ 授業外の課題、④ 学期末レポート		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学研究法特論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	臨床心理学を専攻する大学院生が、修士論文作成の中で用いることが多い心理学の研究法に焦点を当てる。文献の検索・収集・批判的検討から、研究デザインの策定、データの収集と解析、結果の考察と論文執筆、そして発表に至るまで、一連の科学的実証研究のプロセスを体得することを目指す。講義の中で、修士論文のデザインをブラッシュアップしていくことも目的の1つである。	講義形態は、いわゆる「授業」ではなく、「アクティブ・ラーニング」を重視したやり方とする。よって、卒業研究や修士論文研究デザインの発表、講義における意見表明や質問、対話や討論など、積極的・能動的な関与を求める。
到達目標	①「科学」および「心の科学」とは何かについて、自分なりの見識を持つことができる。 ②心理学研究の主要な方法論について理解し、その要点を人に説明することができる。 ③研究論文をクリティカルに読む方法の基礎が身につけられる。 ④講義内でのプレゼンと討議を通して、修士論文の研究デザインを洗練させることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・授業契約	次回講義内容の予習
	2	科学的とは何か?について考える～定義・要件・心の科学論～	次回講義内容(実験法)の予習
	3	心理学の方法論(1): 実験法	次回講義内容(質問紙調査法)の予習
	4	心理学の方法論(2): 質問紙調査法	次回講義内容(面接法)の予習
	5	心理学の方法論(3): 面接法	次回講義内容(質的研究法)の予習
	6	心理学の方法論(4): 質的研究法	今回の復習・次回の講義文献の精読
	7	研究論文を批判的に読む(1)～クリティカル・リーディング入門～	次回に講読する文献の精読
	8	研究論文を批判的に読む(2)～クリティカル・リーディング演習～	今回の復習
	9	研究発表(1): 卒業研究 or 修論計画のプレゼンテーション	レジュメ作成・コメント内容の検討
	10	研究発表(2): 卒業研究 or 修論計画のプレゼンテーション	レジュメ作成・コメント内容の検討
	11	修士論文ブレデザイン発表・検討会(1)	レジュメ作成・コメント内容の検討
	12	修士論文ブレデザイン発表・検討会(2)	レジュメ作成・コメント内容の検討
	13	修論作成に関わる主要論文の批判的検討(1)	レジュメ作成・コメント内容の検討
	14	修論作成に関わる主要論文の批判的検討(2)	次回発表会用のプレゼン資料作成
15	修士論文ブレデザイン発表会	コメント内容の検討・振り返り	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しない。毎回の配布資料を中心に講義する。以下に参考書籍を示す。 安藤清志・村田光二・沼崎誠 編 2017 [補訂新版] 社会心理学研究入門 東京大学出版会 宮本聡介・宇井美代子 編 2014 質問紙調査と心理測定尺度 サイエンス社 村井潤一郎 2012 Progress & Application心理学研究法 サイエンス社 浦上昌則・脇田貴文 2008 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 東京図書
----------------	---

学びの手立て	実習や学外ボランティア等、やむを得ない事情で遅刻や欠席をする際は、なるべく事前に担当教員に連絡を入れること。難しい場合は、事後速やかに連絡すること。講義では、質問やコメント等、積極的かつ能動的な関与を求め、その度合いを評価します。講師や他の受講生の話をうのみにせず、いったん自分の頭でクリティカルに考えてから咀嚼すること。自分なりの視点と意見を持ち、それを表明し、対話・議論することを心がけること。
--------	---

評価	1. 講義における発言、質疑応答や対話・討論への積極的な参加等、授業参加度が60% 2. プレゼンテーションや課題への取り組み状況等、課題遂行度が40% 上記の1と2をもとに、総合的に評価する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・心理統計法特論を履修すると、データ解析法と研究法の関連性が理解しやすくなるだろう。 ・次のステージとして、臨床心理学特殊研究での修士論文作成に活かしてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理支援に関する理論と実践	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1年	平山篤史 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理臨床面接の基本的考え方、態度、理論を習得する。学内外の臨床実習に対応できる基礎力を養う。	メッセージ 心理臨床面接は「技法」だけを覚えても支援の役に立ちません。技法にクライアントを当てはめるのではなく、クライアントの役立つように技法を使えるようにともに学んでいきましょう。代表的な心理支援の理論と方法をおさえた上で、学内外の実習で使える心理臨床面接を取り上げて学びます。
	到達目標 心理臨床面接の実践の基礎が理解できる ロールプレイングや学内外の実習で心理臨床面接ができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	力動論に基づく心理療法の理論と方法	配布資料精読・感想シート
	2	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法	配布資料精読・感想シート
	3	その他の心理療法の理論と方法	配布資料精読・感想シート
	4	箱庭療法①理論と方法	配布資料精読・感想シート
	5	箱庭療法②ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ1	感想シート
	6	箱庭療法③ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ2	感想シート
	7	箱庭療法④ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ3	感想シート
	8	箱庭療法⑤事例から学ぶ1	配布資料精読・感想シート
	9	箱庭療法⑥事例から学ぶ2	配布資料精読・感想シート
	10	遊戯療法①理論と方法	配布資料精読・感想シート
	11	遊戯療法②ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ1	感想シート
	12	遊戯療法③ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ2	感想シート
	13	遊戯療法④ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ3	感想シート
	14	遊戯療法⑤事例から学ぶ1	配布資料精読・感想シート
15	箱庭療法⑥事例から学ぶ2	配布資料精読・感想シート	
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する		
	学びの手立て 心理臨床実践の学びのためには、自分の認知・行動・感情を振り返り、言語化するトレーニングが必要とされる。その際、乗り越えなければならない自分自身の課題も見つかると思うが、それに向き合い続けなければならない。心理的負担を伴う作業ではあるが、スーパーバイザーや教員を使い、支えを得ながら、取り組んでほしい。受け身的な態度では実践力は身につかない。積極的に発言し、行動し、多くの経験を積んでほしい。		
	評価 ①ディスカッションへの取り組み方 ②リフレクションシート・課題の提出状況 ③学外の実習評価 を総合的に判断し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 臨床心理学領域の領域必修科目、選択科目、学内外の実習につながる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理実践実習 I	通年	水 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・井村 弘子	1年	平山：研究室13-211 atsushi@okiu.ac.jp 井村：研究室 5-424-2 h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	臨床現場で実習をする上で必要な倫理、態度、基本的知識・技能を学習し、実習の準備を行う。心の専門家が働いている4分野（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野）について実習・見学実習を行う。また、これらの実習体験を振り返り、心理的支援の専門家を目指す上で、今後の演習・実習で必要となる自らの課題や活かせる資質を確認する。	生の臨床現場を体験する実習である。そのため、必要な準備（基礎的な知識・倫理）をしっかりと行うことが必要となる。

到達目標	心理的支援の専門家として必要な①コミュニケーション能力②心理査定技能③心理面接技能④地域支援技能の基礎を習得する。心理支援が必要とされる対象者のニーズの把握と心理学的理解、それに応じた支援方針の計画の考え方を習得する。実習施設における多職種とのチームアプローチの基礎を習得する。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料をよく読む
	2	社会人として働くこと、組織人として働くこと	ディスカッションの振り返り
	3	保健医療分野に関する法的根拠	調べ学習と復習
	4	保健医療分野（精神科病院）の役割と機能	調べ学習と復習
	5	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（統合失調症）	調べ学習と復習
	6	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（アルコール依存症）	調べ学習と復習
	7	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（認知症）	調べ学習と復習
	8	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（デイケア・作業療法）	調べ学習と復習
	9	保健医療分野における多職種の役割と連携	調べ学習と復習
	10	保健医療分野（精神科病院）におけるアセスメント技法	調べ学習と復習
	11	実習生として臨床現場に入るといことと基本的ルール	ディスカッションの振り返り
	12	心理的支援従事者に求められる倫理	ディスカッションの振り返り
	13	実習目的の具体化・明確化①前半グループ	発表準備・振り返り
	14	実習目的の具体化・明確化②後半グループ	発表準備・振り返り
	15	実習記録のまとめ方	配布資料を読む
	16	精神科病院実習報告と振り返り①前半グループ	発表準備・振り返り
	17	精神科病院実習報告と振り返り②後半グループ	発表準備・振り返り
	18	教育分野の法的根拠	調べ学習と復習
	19	教育分野（教育委員会教育相談課）の役割と機能	調べ学習と復習
	20	教育分野（教育委員会教育相談課）における支援の対象者と心理的支援	調べ学習と復習
	21	教育委員会教育相談課見学実習の振り返り	ディスカッションの振り返り
	22	福祉分野の法的根拠	調べ学習と復習
	23	福祉分野（児童相談所）の役割と機能	調べ学習と復習
	24	福祉分野における支援の対象者と心理的支援	調べ学習と復習
	25	児童相談所見学実習の振り返り	ディスカッションの振り返り
	26	司法・犯罪分野の法的根拠	調べ学習と復習
	27	司法・犯罪分野（少年鑑別所）の役割と機能	調べ学習と復習
	28	司法・犯罪分野（少年鑑別所）における支援の対象者と心理的支援	調べ学習と復習
	29	少年鑑別所見学実習の振り返り	ディスカッションの振り返り
30	まとめ	ディスカッションの振り返り	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献 病院で働く心理職—現場から伝えたいこと 野村れいか（編著）日本評論社 臨床心理士を目指す大学院生のための精神科実習ガイド 津川律子・橋玲子（編著）誠信書房 こころの専門家が会う法律 佐藤進（監）津川律子・元永拓郎（編）誠信書房</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>実習は参加するだけでは何も身にならない。事前に関連知識を得て、問題意識・目的意識を明確化して臨むことで多くの学びを得ることができる。また、同じ体験をしても、実習生によって感じることや考えることは異なる。実習後はディスカッションを行い、意見交換し、実習体験をより深化させる。</p>
	<p>評価</p> <p>準備（事前課題・発表）…30点 実習態度・実習への取り組み…30点 実習後のディスカッション…30点 実習の振り返りレポート…10点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>心理実践実習Ⅱ、心理実践実習Ⅲ、心理実践実習Ⅳ その他の専門科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理実践実習Ⅲ	通年	水7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・上田 幸彦	1年	平山：研究室13-211 atsushi@okiu.ac.jp 上田：研究室13-213 y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学院附属の施設、心理相談室のケースを担当するための基本的な知識や枠組みを学び、心理相談室業務の実習を通して体験的に学ぶ。実習Ⅲでは、特に電話受付と、臨床心理士有資格者の面接陪席が中心となる。また、心理相談室業務の運営についても実践を通して学ぶ。</p>	<p>心理相談室のスタッフとして、業務とクライアントに関わることで心理臨床の基礎を学びます。有資格者の面接を陪席できる機会は、社会にでるとなかなか体験することができません。陪席者という立場で俯瞰的に面接を観察する一方で、自分が面接担当者であるかのような「思い入れ」も持ちながら望んでほしいです。</p>

到達目標	①心理相談室業務の基本的枠組みが理解できる②心理相談室業務の流れが理解できる③電話受付業務ができる④面接への陪席を通して、クライアント理解、および、セラピストとクライアントの相互作用が理解できる⑤インテーク報告書をまとめることができる
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	心理相談室の組織と機能	配布資料の復習
	3	心理相談室の面接構造	配布資料の復習
	4	心理相談室の備品と使い方	配布資料の復習
	5	心理相談室の相談業務の流れ	配布資料の復習
	6	電話受付の概要と留意点	配布資料の復習
	7	電話受付ロールプレイングと受付シートの作成1	ロールプレイング体験振り返り
	8	電話受付ロールプレイングと受付シートの作成2	ロールプレイング体験振り返り
	9	ケースに関する各書式の必要事項と留意点	配布資料の復習
	10	ケース記録の記入に関する留意点	配布資料の復習
	11	陪席実習の目的・意義	配布資料の復習
	12	陪席実習の心構えと留意点	ディスカッションの振り返り
	13	陪席記録の取り方	配布資料の復習
	14	陪席実習振り返り1	陪席記録のまとめ・発表準備
	15	陪席実習振り返り2	陪席記録のまとめ・発表準備
	16	陪席実習振り返り3	陪席記録のまとめ・発表準備
	17	ケースカンファレンス運営の方法と留意点	配布資料の復習
	18	陪席実習振り返り4	陪席記録のまとめ・発表準備
	19	陪席実習振り返り5	陪席記録のまとめ・発表準備
	20	陪席実習振り返り6	陪席記録のまとめ・発表準備
	21	インテーク報告書の各項目と書き方	インテーク報告書のまとめ・発表準備
	22	インテーク報告書のまとめ方（基本事項・ジェノグラム・主訴）	インテーク報告書のまとめ・発表準備
	23	インテーク報告書のまとめ方（成育歴・現症歴・問題歴）	インテーク報告書のまとめ・発表準備
	24	インテーク報告書のまとめ方（見立てと方針）	インテーク報告書のまとめ・発表準備
	25	インテーク報告書のまとめ方についての集団スーパーヴィジョン	インテーク報告書のまとめ・発表準備
	26	陪席実習振り返り7	陪席記録のまとめ・発表準備
	27	陪席実習振り返り8	陪席記録のまとめ・発表準備
	28	陪席実習振り返り9	陪席記録のまとめ・発表準備
	29	ケースの引き継ぎについての留意点1	見立て・方針のまとめ
30	ケースの引き継ぎについての留意点2	見立て・方針のまとめ	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考図書 心理臨床家の手引き 鏑幹八郎・名島潤慈（編著） 誠信書房 臨床面接の進め方―初心者のための13章― M・ハーゼン、V・B・ヴァンハッセル（編）深澤道子（監訳）日本評論社 カウンセリングプロセスハンドブック 福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦（編）金子書房</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>個々のケースへの対応は、机上の勉強だけでは学べないことが多くあります。基本的な枠組みはしっかり押さえつつ、個々のケースに応じてどう対応できるのかその都度その都度考えることが重要です。判断のつきにくいことも多いかと思いますが、教員、嘱託カウンセラーの先生、先輩に積極的に質問し、経験を通して学びましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>実習態度・実習への取り組み…40点 実習後の振り返りのディスカッション…30点 毎回の課題・実習の振り返りレポート…30点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>心理実践実習Ⅱ、心理実践実習Ⅳ、臨床心理実習A/B その他の専門科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理的アセスメントに関する理論と実践	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 最近日本においても、臨床心理士に求められることが多い神経心理学的検査法について学ぶ。特に神経心理学的検査が必要とされる高次脳機能障害に対する基本的な神経心理学検査バッテリーの実施法を身につける。	メッセージ
	到達目標 神経心理学的検査結果から援助に役に立つ所見を書けるようになることを目指す。神経心理学的所見に基づく援助方法を考えることができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	神経心理学査定概論	配布資料の復習
	2	認知機能概論①	配布資料の復習
	3	認知機能概論②	配布資料の復習
	4	認知機能概論③	配布資料の復習
	5	認知機能概論④	配布資料の復習
	6	WAIS-III①	配布資料の復習
	7	WAIS-III②	データ整理
	8	WAIS-III③ プロフィール分析、結果の解釈と所見の書き方	結果の整理
	9	WMS-R①	データ整理
	10	WMS-R②	結果の整理
	11	リーバ-ミード行動記憶検査	配布資料の復習
	12	注意機能検査①：TMT	配布資料の復習
	13	注意機能検査②：PASAT	配布資料の復習
	14	遂行機能検査 ウィスコンシンカードソーティングテスト	配布資料の復習
	15	神経心理学的報告書の書き方	配布資料の復習
	16	レポート	
	テキスト・参考文献・資料など 神経心理学的検査集成 レザック, M. D. 鹿島晴雄監修 創造出版		
	学びの手立て		
	評価 最終レポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計法特論	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 亘武	1年	poshiro@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、実証研究を行う上での有力な手法である統計的データ解析法について演習中心に学んでいく。目標は、受講生が可能な限り独力で、一通りの主要なデータ解析法が扱えるようになることである。受講生各自の研究デザインやデータとなるべく関連づけながら授業を展開し、実際にサンプルデータを用いてPCと統計パッケージ(SPSS・Amos等)を用いたデータ解析を行う。</p>	<p>受講生のデータ解析法の知識やスキルを把握した上で、授業計画を若干調整したいと思います。“習うより慣れろ”で、まずは、やってみることが大事です。</p>
到達目標	<p>①心理学の研究でよく用いられる実験研究型のデータと調査研究型のデータを、一通り独力で分析できる。 ②収集されたデータの特徴に合わせて、適切な統計解析手法を適用できるようになる。 ③修士論文の研究で実証的なデータを収集した際に、本科目で身につけた統計解析法を活用して論文にまとめることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・オリエンテーション：本講義の進め方の説明等、心理学の研究法とは？	次回テーマについての予習
	2	研究デザインとデータ解析の関係 & 変数の分類と尺度水準	次回テーマの予習と今回の復習
	3	度数の違いの検定～ χ^2 乗検定と残差分析～	次回テーマの予習と今回の復習
	4	平均値の差の検定(1)～1要因分散分析～	次回テーマの予習と今回の復習
	5	2要因分散分析における主効果と交互作用とは？	次回テーマの予習と今回の復習
	6	平均値の差の検定(2)～2要因分散分析：実験参加者間計画～	次回テーマの予習と今回の復習
	7	平均値の差の検定(3)～2要因分散分析：実験参加者内計画～	次回テーマの予習と今回の復習
	8	2変数間の関係性の分析～相関分析と回帰分析～	次回テーマの予習と今回の復習
	9	因果モデルに基づく説明と予測のための方法～重回帰分析とパス解析～	次回テーマの予習と今回の復習
	10	多くの変数を少数の指標にまとめる方法～主成分分析と因子分析～	次回テーマの予習と今回の復習
	11	変数間の背後にある要因を探る方法～因子分析演習～	次回テーマの予習と今回の復習
	12	潜在変数を用いたデータ解析法～共分散構造分析(1)～基礎編	次回テーマの予習と今回の復習
	13	潜在変数を用いたデータ解析法～共分散構造分析(2)～応用編	次回テーマの予習と今回の復習
	14	実験・調査データの解析：総合演習	次回テーマの予習と今回の復習
15	データ解析総合演習：学期末課題演習	全学習内容の復習と課題作成	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など
 教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。下記は参考書籍です。

小塩真司 (2005). 研究事例で学ぶSPSSとAMOSによる心理・調査データ解析 東京図書
 小塩真司 (2011). SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析 [第2版] 東京図書
 西内啓 (2016). 統計学が日本を救う 中央公論新社
 神林博史 (2017). 1歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方 ミネルヴァ書房

学びの手立て

- ・毎回の講義内容を積み上げ式に習得していくことが大切です。
- ・遅刻や欠席をすると理解が困難になることがありますので、ご注意ください。
- ・学部レベルの統計学の知識は、自学自習で身につけておくことが望ましいです。

評価

- ・成績評価は、平常点50%、学期末課題50%の内訳で、これらを総合して評価します。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・平常点は、各回の演習課題への取り組み状況を中心に評価します。
- ・学期末課題は、参考書等の持込みを「可」とします。

学びの継続

次のステージ・関連科目

- ・心理学研究法特論を履修すると、研究法とデータ解析法の関連性が理解しやすくなるだろう。
- ・次のステージとして、臨床心理学特殊研究での修士論文作成に活かしてほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理療法特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-井村 修	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人格心理学特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-服巻 豊	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

臨床心理学領域大学院生のみが履修できる。臨床心理の実践力を身につけるための専門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	投映法特論	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	1年	稲田梨沙 <r.inada@okiu.ac.jp>	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理検査の中でも投映法検査について取り上げる。主にロールシャッハ・テストの適切な実施方法、結果の整理、解釈の基本的な考え方について体験的に学習した上で、検査報告書の書き方、テストバッテリーの組み方、心理的援助に結びつく総合所見の書き方などを身につけることを目的とする。	演習の一環として事前に必ず被験者体験をし、データを手元に用意すること。投映法検査について、各検査の成り立ち、目的、構成、手順、測定方法などについて各自整理しておくこと。
到達目標	"投映法検査を臨床場面で実際に活用するには、さらなる研修が必要であるが、その基礎を学ぶ機会になればと考える。この科目を履修することによって主にロールシャッハ・テストの実施と結果整理ができるようになる。その分析や解釈方法については、事例を通して理解を深めることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床心理学における心理査定について	臨床心理学の査定について調べる
	2	投映法被験者体験を振り返る	被験者体験後感想をまとめておく
	3	投映法検査概論	投映法検査の種類について調べる
	4	ロールシャッハ・テストの歴史と実施方法	ロ・テの歴史と実施 テキスト予習
	5	ロールシャッハ・テストの結果整理の方法	ロ・テの結果整理 ”
	6	ロールシャッハ・テストのスコアリング方法	ロ・テのスコアリング ”
	7	ロールシャッハ・テストの分析・解釈の方法	ロ・テの分析・解釈 ”
	8	架空事例のスコアリング実習	スコアリングをすべてまとめる
	9	架空事例の結果整理実習	結果を最後まで整理する
	10	事例Aのスコアリング実習	スコアリングをすべてまとめる
	11	事例Aの結果整理実習	結果を最後まで整理する
	12	事例Aの見立てと所見の書き方	所見の書き方について調べ学習
	13	スコアリングの実践	スコアリングをすべてまとめる
14	結果整理の実践	結果を最後まで整理する	
15	所見のまとめ方実践	所見を仕上げる	
16	最終レポート作成・提出 (到達度の確認)	最終レポート作成・提出	
テキスト・参考文献・資料など			
テキスト：片口安史 「改訂新・心理診断法」 金子書房			
学びの手立て			
①履修の心構え 欠席するとその後の理解に支障をきたすため、皆出席かつ遅刻厳禁。			
②学びを深めるために 臨床現場でのボランティア活動等を行うことを奨励する。			
評価			
発表、討論への参加、提出されたレポート等から総合的に評価する。			
割合 平常点(出席状況等) 30% 課題レポート50% 最終レポート20% 上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「臨床心理査定演習Ⅰ」「臨床心理査定演習Ⅱ」を受講することが望ましい。 次のステージ 「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理事例検討実習」などを受講する中で、事例を通してさらに理解できることが望ましい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究 I A	通年	水 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	1年		

学びの準備	ねらい 本講のねらいは以下の通りとする。① 各自の研究テーマについて明確にする。② 先行研究を収集・精読し、現状の研究の状況や到達点等を明確にする。③ 研究の現状等の中で、自らの研究を位置づけ明確にする。④ 量的研究・質的研究等、また信頼性・妥当性等について十分理解する。⑤ 以下、各自の進捗状況に応じて、研究計画の作成等に取り組む。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>前期</p> <p>第1週～第3週 講義の概要説明・研究計画等に関する確認</p> <p>第3週～第10週 先行研究の精読及び報告</p> <p>第11週～第12週 研究方法に関する検討</p> <p>第13週～第14週 研究計画の発表（中間報告会）</p> <p>第15週 研究計画の確定・計画書の提出</p> <p>夏季休暇</p> <p>各自、自分の研究計画に基づく基礎調査の実施・まとめ作業を行う</p> <p>後期</p> <p>第16週～第17週 夏季休暇中の基礎調査結果の報告</p> <p>第18週～第22週 研究テーマ・先行研究の再検証</p> <p>第23週～第25週 研究の動向・方法に関する再検証</p> <p>第26週～第28週 研究テーマの確定（第2回中間報告会）</p> <p>第29週～第31週 研究計画書のまとめ・再提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、資料・コピー等を配信又は配布する。 ・受講生は自らの研究に関連して、①最も重要であると判断する文献、②研究の方法に関する文献、③論文作成に関する文献を、それぞれ一冊ずつ指定し常に持参すること。 ・必要に応じ紹介する。
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>本講の評価は、以下の項目をもって行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 三分の一以上の欠席の場合は評価の対象としない ② 調査・分析・レポート等の内容及び提出状況 ③ 中間報告会等の内容 ④ その他

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究Ⅰc	通年	水5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	1年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 修士論文作成に必要とされる研究上の予備的作業を行う。	メッセージ
	到達目標 修士論文の構成、所要の調査の設計、先行研究の整理が終了し、自身の修士論文の目的、方法、意義について明確な説明ができるようになる。	

学びの準備	到達目標 修士論文の構成、所要の調査の設計、先行研究の整理が終了し、自身の修士論文の目的、方法、意義について明確な説明ができるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 下記の手順で演習を進め、随時、発表・報告を行わせる。 第1Semester 1. 問題意識の整理→研究計画書・学部卒業論文の吟味 2. 関連先行研究の概観→参考文献の収集とリストの作成 3. テーマの決定→基本文献の選定・問題の具体化・結論の展望 4. 研究手法の検討→必要とされる準備の把握・予備調査等の実施 5. 夏季休暇中の研究計画とSemesterのまとめを提出 第2Semester 6. 参考文献の読みこみ→研究動向概要の作成 7. 研究上の位置づけ・意義の検討→研究テーマの再検討 8. 基本文献の読解／本調査の実施 9. 論点の整理→論文構成概略の作成 10. 春季休暇中の研究計画とSemesterのまとめを提出
	テキスト・参考文献・資料など なし。 授業中に適宜、紹介する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など なし。 授業中に適宜、紹介する。
-------	---------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 年度当初に入学までの研究実績（論文、レポート、研究計画、その他）のコピーを提出すること。
-------	--

学びの実践	評価 論文作成のための予備的作業の進捗状況を中心に、授業への実質的なかわり、提出物の内容、発表・報告におけるプレゼンテーションなどを総合的に評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 人間福祉特殊研究Ⅱc
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究ⅠD	通年	木5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 社会福祉学研究全体の動向を理解した上で、自身の関心分野の研究動向を確認します。研究の進め方を理解し、研究計画を作成、検討します。受講生の研究テーマに寄り添いながら主要参考文献を発表し議論を深めます。	メッセージ 受講生の研究活動を応援します。共に研鑽を重ね納得のいく論文を作成していきましょう。
	到達目標 研究計画を立て、研究活動のプロセスを確立します。	

学びの準備	到達目標 研究計画を立て、研究活動のプロセスを確立します。
-------	----------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <第1セメスター> 1. 社会福祉学研究の概要を理解する。 2. 研究の進め方を理解する。 3. 問題意識の整理、参考文献の収集とリストの作成 4. 主要参考文献を精読、発表する。 5. 夏季休暇中の研究計画とセメスターのまとめを提出 <第2セメスター> 1. 主要参考文献を精読、発表する 2. 研究計画に沿って調査を実施する。 3. 春季休暇中の研究計画とセメスターのまとめを提出
	テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。特定のテキストはありません。
	学びの手立て 学会や研究会に積極的に参加しましょう。他の学生の研究にも関心を持ち議論を深め視野を広げましょう。
	評価 研究内容（70%）、研究の主体的取り組み状況（30%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：人間福祉特殊研究Ⅱにつなげていきます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究 I E	通年	水 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィロックス	1年		

学びの準備	ねらい 本授業のねらいは以下のとおりとする。 1. 研究方法に関する理解 2. 各自の研究テーマの確定 3. 専攻研究まとめと研究の位置づけの明確化 4. 研究計画(調査方法・時期、分析方法など)の確定 5. 基礎調査等の実施	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>・授業と個別指導を取り混ぜながら行う。・前期では、研究の意味や基本的視点、研究に必要な情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認する。・論文購読、学会参加、実際の研究活動や発表に参加を通して研究活動についての理解を深める。・研究フィールドの確定と現場への参加を通して、実践例・事例等への接触と観察、基礎的な資料の作成を行う。・学会や研究会への参加を通して研究活動に取り組む。・講義終了までには、研究計画を完成させる。</p> <p><前期> 第1回：オリエンテーション 第2回：各自の研究テーマの紹介。 第3回：研究課題とフィールドの明確化。 第4～8回：研究の意味と基本的視点、情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認。 第9～10回：検索、方法の実際、論文購読。個別指導。 第11～14：中間報告(1回目) 個別発表、全体検討、課題の明確化、個別指導。 第15回：前期のまとめ。 夏季休暇中：学会参加を奨励。 <後期> 第16～18回：中間報告会(2回目) 個別発表、全体検討、課題の明確化。 第19～24回：先行研究・個別研究指導。 第25～28回：中間報告会(3回目) 個別発表、全体討議、課題の明確化。 第29～30回：まとめ、提出、報告。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 沖縄で学ぶ 福祉老年学 (学文社) 金城 一雄・国吉 和子・山城 寛 編著 2009年 健康長寿の条件：元気な沖縄の高齢者たち (株式会社ワールドプランニング) 崎原 盛造・芳賀 博 2002年 【参考文献】 適宜、論文等を紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>出席状況、講義への積極的な取り組み、提出物、課題など総合的に判断する</p>
	<p>評価</p> <p>①出席、レポート提出。②クラス討論、授業内での発表。③研究テーマの確定および取組状況。④研究発表報告の内容と達成度。 出席およびレポート提出状況を重視する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特殊研究ⅡA	通年	水6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	2年	講義の中で受け付ける オフィスアワーの活用を歓迎する	

学びの準備	ねらい これまでの調査・分析の結果を再検討し、論文を仕上げる 先行研究・自分の研究領域の位置づけを明確に説明できる 研究方法・信頼性・妥当性等について明確に説明ができる 自分の研究成果の意義について明確に説明ができる	メッセージ 類似の内容や方法の先行研究を精読理解し、自分の研究の方法・ 意義・成果等について説明ができるように常に意識すること
	到達目標 修士論文の完成	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義の中で提示する
	2	これまでの研究の進捗状況の確認	同上
	3	テーマについて再確認	同上
	4	先行研究と研究領域の現状について	同上
	5	研究分野における自分の研究の位置づけ	同上
	6	期待される成果・限界	同上
	7	研究の方法の確認	同上
	8	研究計画の再検討と今後の活動計画	同上
	9	補足調査等への取り組み①	同上
	10	上記取り組み	同上
	11	研究活動の再確認・検証・助言等	同上
	12	個別指導①	同上
	13	個別指導②	同上
	14	中間報告・発表準備	同上
	15	中間報告・指導・課題等の提示	同上
	16	夏期休暇中の研究の進捗状況について	同上
	17	進捗助教と補足指導	同上
	18	作業状況の確認・指導①	同上
	19	作業状況の確認・指導②	同上
	20	作業状況の確認・指導③	同上
	21	論文の仮提出	同上
	22	中間報告会・指導	同上
	23	提出論文の修正・指導①	同上
	24	提出論文の修正・指導②	同上
	25	提出論文の修正・指導③	同上
	26	完成論文としての提出	同上
	27	提出論文の再確認・指導	同上
	28	最終発表の準備①	同上
	29	最終発表の準備②	同上
30	最終発表	同上	
31			

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示又は資料やコピー等を配布する。 自らの研究に関連する論文・関連する文献等 論文作成に関する文献 上記の具体的内容は講義の中で提示する</p>
	<p>学びの手立て 学会での類似研究の動向に関心を持ち、情報収集に努めること 開催される学会には可能な限り参加し発表に触れること 発表の機会は可能な限り活用し、自分の研究への助言を多く得ること</p>
	<p>評価 作成された修士論文の完成度 (80%) + 受講態度 (20%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

※ポリシーとの関連性 この科目は「個人や社会の福祉問題に関する適切な研究活動」の土台となる見識の一端を提供するものである。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人間福祉特論	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	1年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は、テキストの批判的読解と受講者との議論により、人間と福祉とのかかわりについて原理的な考察をおこなうものである。	メッセージ 「ともに考える」ことへの主体的な取り組みを求める。
	到達目標 伝統的支援原理としての「隣人愛」がどのような意味で「現場の理念」となりうるか、いくつかの可能性をコンパクトに述べるができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <input type="checkbox"/> 社会福祉の原理と人間の倫理を架橋する「現場の理念」となりうるものを探索・検討する。 今年度は、伝統的支援原理の一つである「隣人愛」についての原理的検討を行う。 <input type="checkbox"/> 授業は以下のような段取りでおこなう。 ・文献について受講者が交替で分担してレジюме（A4、1～2枚、40字×30行）をつくり、概要を報告する。 ・報告担当者以外の受講者は批判的コメント（A4、1枚、40字×30行程度）を準備する。 ・概要とコメントふまえて全員で議論する。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・遠藤徹『〈尊びの愛〉としてのアガペー』教文館

学びの実践	学びの手立て
	評価 報告、レジюме、コメント、議論への貢献などを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会倫理学特論
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	認知心理学特論	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	1年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	認知心理学の主要テーマ（知覚、思考、言語、記憶、感情、注意と意識など）の知見や理論を学ぶ。また、認知心理学や認知科学の分野で蓄積されてきた脳とこころの働きについての研究法についても学ぶ。文献の講読や対話を通じ「日常の中の認知的活動」と「脳と認知的活動」の2つの視点を意識して学び、認知心理学的視座から、ひと（自己と他者）の認知のあり方を理解する力を高める。	授業内・外で「ものごとを認識すること、理解すること、考えること」というこころの働き（認知過程・認知活動）について、文献を読み、対話し、考える機会を多く経験してほしい。日頃から自分や人々のこころの動きや働き、認識と感情と行動の関係を意識的に観察してほしい。目に見えない認知について「観察し、読み、話し、考える」ことを楽しみ、自他のこころの理解に繋げてほしい。
到達目標	①認知心理学の知識をもちいて人間のこころの働きや諸問題について理解と考察を深める、認知心理学的視点を身につけている。 ②認知心理学的視点をもちいて、人間のこころの働きや諸問題について、深く検討し、問題解決にあたることができる。 ③認知心理学的視点をもちいて、臨床心理学的実践力や臨床心理学的研究力を高めることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・認知心理学とは	シラバス等の内容理解/観察課題
	2	自己の認知活動について意識するワークA（感覚入力と認知過程）の実践	次回のワークの準備
	3	自己の認知活動について意識するワークB（対人認知）の実践	次回のワークの準備/次回の予習
	4	自己の認知活動について意識するワークBの実践報告③/認知心理学の歴史とテーマ	次回の予習/今回の復習
	5	視覚認知/感性認知	次回の予習/今回の復習
	6	注意/ワーキングメモリ	次回の予習/今回の復習
	7	長期記憶/日常認知	次回の予習/今回の復習
	8	カテゴリー化/知識の表象と構造	次回の予習/今回の復習
	9	言語理解	次回の予習/今回の復習
	10	問題解決と推論/判断と意思決定	次回の予習/今回の復習
	11	認知と感情/認知進化と脳	次回の予習/今回の復習
	12	認知的発達/社会的認知	次回の予習/今回の復習
	13	文化と認知/メディア情報と社会認識	次回の予習/今回の復習
	14	メタ認知	次回の予習/今回の復習
15	認知心理学的視点で自己の課題を考える/まとめ	次回の予習/今回の復習/期末課題	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	テキスト：箱田裕司他（著）（2013）． 認知心理学 有斐閣 ＊テキストは毎回の授業に使用する。各自準備し、持参すること。 参考文献：必要に応じて資料を配布する。以下の①～③の参考図書を参照するとよい。 ①森敏昭・井上毅・松井孝雄（2009）． グラフィック認知心理学 サイエンス社 ②森敏昭・中條和光（2007）． 認知心理学キーワード 有斐閣叢書 有斐閣 ③日本認知心理学会（編）（2013）． 認知心理学ハンドブック 有斐閣ブックス 有斐閣
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 予習・復習において、テキスト精読とワークシートのまとめ、日常観察を課します。予・復習の内容にもとづいて授業内での小グループワーク（課題について対話をしながら考える）を行います。「ひとの認知」について「よく読み、よく観察し、よく話し、よく考える」ことに積極的に取り組んでください。 「臨床心理学系科目の学び」、「心理臨床の現場経験と課題」、「日常の心の動きや行動」と「認知心理学」の学びを、関連づけながら物事を捉え考えることを意識して習慣づけてください。
--------	---

評価	平常点（受講態度、授業内ワークへの参加態度・貢献度、予・復習ワークシートの内容と提出状況）…50％ 期末課題（ポートフォリオとレポート課題の内容）…50％ 平常テスト期末課題を総合して到達目標の①～③の達成度を評価する予定。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容を基盤として、臨床や福祉など、それぞれの専門領域の研究や実践の展開に役立ててください
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉分野に関する理論と支援の展開	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島袋 静香	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義の目的は、支援を必要とする高齢者、障害児・者、児童、その他生活貧困等者の問題について基礎知識を習得し、様々な方面から支援のあり方について議論することである。また、障害児・者の講義では、少数の神経発達障害に焦点を当て、特質にあった臨床判断や介入の重要性を理解する。当事者の支援や介入だけではなく、家族支援も含めた介入も視野に入れた知識の拡充を目的とする。</p>	<p>講義だけでは十分に到達目標を達成するには至らない箇所は、理解を深めるために配布物を配布する。事前に配布された資料・論文等を十分読みこなし、各自が問題意識を持って積極的にディスカッションに参加することが重要である。障害児・者の講義では、二つの神経発達障害に焦点を絞って理論、臨床的判断、支援法等を学ぶ。</p>
到達目標	<p>支援を必要とする高齢者、神経発達障害・者、児童、その他生活貧困等者の問題について、問題の性質や現状、障害の特質、支援のあり方について理解を深めること。神経発達障害の臨床的判断や治療法についての視野を広げることが目的とし、アセスメントの計画を立て、理論に基づいた適切な介入法を検討することや提示することが出来るようになる。加えて、エビデンスに基づいた臨床実践の重要性を踏まえて、心理社会的支援における実証研究法について理解を深める。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>講義の概要</td><td>配布される文献を読んで来ること。</td></tr> <tr><td>2</td><td>障害の概念</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>注意欠如多動症（1）</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>注意欠如多動症（2）</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>心理社会的支援の理論と概念</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>心理社会的支援の実証研究</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>自閉スペクトラム症（1）</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>自閉スペクトラム症（2）</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>発達に応じた子どもの問題とその支援</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>児童虐待</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>神経発達障害と児童虐待</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>家族支援を家族療法学から考える</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>被害者支援</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>高齢者福祉</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>学期末発表</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>学期末発表</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	講義の概要	配布される文献を読んで来ること。	2	障害の概念		3	注意欠如多動症（1）		4	注意欠如多動症（2）		5	心理社会的支援の理論と概念		6	心理社会的支援の実証研究		7	自閉スペクトラム症（1）		8	自閉スペクトラム症（2）		9	発達に応じた子どもの問題とその支援		10	児童虐待		11	神経発達障害と児童虐待		12	家族支援を家族療法学から考える		13	被害者支援		14	高齢者福祉		15	学期末発表		16	学期末発表	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	講義の概要	配布される文献を読んで来ること。																																																	
	2	障害の概念																																																		
3	注意欠如多動症（1）																																																			
4	注意欠如多動症（2）																																																			
5	心理社会的支援の理論と概念																																																			
6	心理社会的支援の実証研究																																																			
7	自閉スペクトラム症（1）																																																			
8	自閉スペクトラム症（2）																																																			
9	発達に応じた子どもの問題とその支援																																																			
10	児童虐待																																																			
11	神経発達障害と児童虐待																																																			
12	家族支援を家族療法学から考える																																																			
13	被害者支援																																																			
14	高齢者福祉																																																			
15	学期末発表																																																			
16	学期末発表																																																			
テキスト・参考文献・資料など	<p>講義内容に合わせて、適宜プリント資料を配布する。</p>																																																			
学びの手立て	<p>事前学習として出された課題（例えば、文献を読む）にしっかりと目を通し、講義での議論に積極的に参加できるよう準備をすること。</p>																																																			
評価	<p>①講義内における議論への積極的な参加を重視する。②学期末発表により評価する。学期末発表は、グループ（または二人一組のペア）毎に与えられたトピックについて発表を行ってもらうが、その出来栄を以下四項目で評価する：（1）障害や問題の性質を十分に理解しているか、（2）広い視野から支援について考慮されているか、（3）トピックについての文献調査が十分であるか、（4）グループの考えが十分展開されているか。</p>																																																			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義で話し合える内容や時間には制限があるため、講義で学んだ知識を、異なる障害種や自身の関心のある分野における支援の発展に活かしていけるようになることが、本講義の最大の目標である。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	保健医療政策特論	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	1年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは2点である。①我が国における医療政策、保健政策の現状を理解し、問題点、今後の課題を探求する。②我が国の医療提供構造を理解する。特に、病院完結型医療から地域完結型医療への推進による「地域連携」のあり方について理解する。</p>	<p>本科目に関する論文の精読を中心として、講義を展開するため、常に我が国の保健医療政策に興味を示す必要がある。</p>
到達目標	到達目標は次の通りである。①我が国の保健医療政策について概要を説明することができる。②我が国の保健医療政策について、批判的、客観的にみることができる。③我が国の保健医療政策の問題点・課題について説明ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション（計画・調整）	
	2	我が国の医療の現状①医療資源（全般）	保健医療政策について調べる
	3	医療資源関連論文抄読（医療全般）	
	4	我が国の医療の現状②医療資源：人	
	5	医療資源関連論文抄読（医療従事者）	
	6	我が国の医療の現状③医療資源：物	
	7	医療資源関連論文抄読（医療施設）	
	8	我が国の医療の現状④医療資源：財	
	9	医療資源関連論文抄読（医療施設）	我が国の医療政策の動向について
	10	診療報酬・・・出来高から包括へ	
	11	DPC①制度導入経緯	
	12	DPC②DPCとは	
	13	DPC③DPCとは	
	14	DPC制度を巡る問題及び課題	
	15	DPC制度を巡る問題及び課題	
	16	前期振り返り	
	17	後期オリエンテーション（計画・調整）	地域完結型医療について
	18	医療提供構造①：平均在院日数短縮化	
	19	医療提供構造②：急性期型病院	
	20	医療提供構造③：クリティカルパス	
	21	医療提供構造③：医療連携（病・病）	
	22	医療提供構造④：医療連携（病・診）	
	23	医療提供構造⑤：医療連携（モール）	
	24	医療提供構造が変わる！？	地域包括ケアシステムについて
	25	地域医療計画①概論	
	26	地域医療計画②沖縄県	
	27	地域連携：医療の出口に福祉あり	
	28	病院完結型医療から地域完結型医療へ	
	29	クリティカルパス①：院内パス	
30	クリティカルパス②：地域連携パス		
31	振り返り		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。その都度資料を配布する。 「日本医事新法」（研究室定期購読）、「病院」（図書館所蔵雑誌）、厚生労働白書、国民衛生の動向など医療 関連雑誌・図書等</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 少なくともマスメディアで取り上げられる保健医療政策について熟知すること。</p>
	<p>評価 出席状況、課題提出、討論への参加について総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 保健医療政策について学び、自身の修士論文の研究領域につなげる。関連科目は、人間福祉特殊研究ⅠB及びⅡB である。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 保健医療分野に必要な心理検査、心理療法、医学知識、法的知識、チーム医療における他の専門職との連携について学ぶ	メッセージ 保健医療分野は公認心理師が最も活躍する領域である。そのため基礎となる心理的支援の知識だけでなく医学、法律の知識も幅広く身につけること。
	到達目標 保健医療分野で働く公認心理師にとって必要な知識、技術について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	医療・保健の機関	配布資料の復習
	2	関連する法規と制度：医療法、地域保健法、精神保健福祉法、医療保健制度	配布資料の復習
	3	医療倫理、医療記録、患者の権利、患者 - 医療者関係	配布資料の復習
	4	医療における専門職、チーム医療	配布資料の復習
	5	精神科における心理支援（1）統合失調症、気分障害、アルコール依存症	配布資料の復習
	6	精神科における心理支援（2）アセスメント	配布資料の復習
	7	精神科における心理支援（3）個人心理療法	配布資料の復習
	8	精神科における心理支援（4）グループ心理療法	配布資料の復習
	9	一般総合病院における心理支援（1）慢性痛	配布資料の復習
	10	一般総合病院における心理支援（2）糖尿病	配布資料の復習
	11	一般総合病院における心理支援（3）がん	配布資料の復習
	12	一般総合病院における心理支援（4）筋ジストロフィー	配布資料の復習
	13	一般総合病院における心理支援（5）エイズ	配布資料の復習
	14	高次脳機能障害に対するアプローチ	配布資料の復習
	15	認知症に対するアプローチ	配布資料の復習
16	レポート		
	テキスト・参考文献・資料など 病気のひとのこころ 医療の中での心理学 日本心理学会監修 誠信書房		
	学びの手立て		
	評価 授業におけるコメントシート、最終レポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理実践実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特殊研究 I C	通年	金 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	1年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 臨床心理学研究の基礎理論・研究方法等について学びながら、各自の研究テーマを設定し、修士論文作成に向けた具体的な研究計画を立て、研究に着手することを目的とする。	メッセージ 大学院での学業生活の集大成である修士論文に向け、研究課題・論文の構想を明確にするという目標に意欲的に取り組んでほしい。
	到達目標 臨床心理学的研究技法の修得 修士論文の構想	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	臨床心理学研究概論（1）臨床心理学の領域と研究法	
	3	臨床心理学研究概論（2）研究のプロセス	
	4	臨床心理学研究概論（3）研究倫理	
	5	臨床心理学研究方法論（1）量的研究法	
	6	臨床心理学研究方法論（2）質的研究法	
	7	臨床心理学研究方法論（3）データ収集と分析法	
	8	研究テーマ発表（1）テーマの概要	
	9	研究テーマ発表（2）テーマの論点	
	10	研究テーマ発表（3）テーマ設定と報告	
	11	研究文献発表（1）先行研究の概要	
	12	研究文献発表（2）先行研究の論点	
	13	研究文献発表（3）先行研究のまとめと報告	
	14	集団討議（1）テーマに関する批判的検討	
	15	集団討議（2）テーマの関する建設的提言	
	16	集団討議（3）テーマに関する個別報告	
	17	研究デザイン発表（1）デザインの概要	
	18	研究デザイン発表（2）デザインの独自性・課題・問題点	
	19	研究デザイン発表（3）デザインのまとめと報告	
	20	集団討議（4）デザインに関する批判的検討	
	21	集団討議（5）デザインに関する建設的提言	
	22	集団討議（6）デザインに関する個別報告	
	23	研究方法発表（1）研究方法の概要	
	24	研究方法発表（2）研究方法の論点	
	25	研究方法発表（3）研究方法のまとめと報告	
	26	集団討議（7）データ収集と分析に関する批判的検討	
	27	集団討議（8）データ収集と分析に関する建設的提言	
	28	修士論文構想発表（1）研究計画書の概要	
	29	修士論文構想発表（2）研究計画書の論点	
30	修士論文構想発表（3）研究計画書の作成と発表		
31	まとめ		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に定めないが、各自の研究テーマにふさわしいものを随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て 常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確立すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価 発表内容、研究進行状況、討議参加への姿勢や発言などを総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 次年度は「臨床心理学特殊研究ⅡC」を履修し、専門的能力をさらに高めてゆく。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特殊研究 I A	通年	金 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 修士論文を書くことで、臨床における科学的見方を身につけ、将来の科学者－実践家モデルとなる下地を作ることをねらいとする。2年間で修士論文を書き上げるためには、1年時は準備期間となるが、この1年間で、臨床心理学における研究領域と研究方法、テーマ設定、仮説構築と検証方法、データ収集の方法、研究における倫理的配慮、統計的技法の選択、文献検索の方法、科学論文の書き方を	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>前期ではまず、各自の卒業論文の概要と関心のある領域・テーマについて発表・ディスカッションを行いながら、関心のある研究領域の拡大を行う。 次にその中から各自のテーマに関連する論文を読み、論点を整理し発表する。これを繰り返しながら各自の研究テーマと研究目的を絞り込んでいく。 後期において、研究目的を達成するための方法論の検討を行い、研究計画を立てる。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>臨床心理学の研究の技法 下山晴彦 編 (福村出版)</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>毎回の発表の内容と、取り組みの積極性、討議での積極性によって総合的に評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特殊研究ⅡC	通年	金 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	2年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 初年次で十分検討した各自の研究計画に基づき、調査・面接等によりデータを収集し、そのデータを心理学的手法を用いて分析する。そして、その結果を臨床心理学的論点から考察し、修士論文としてまとめることを目的とする。	メッセージ 修士論文作成に向け、前年度までの構想に基づき、早めに着手してデータを収集し、しっかりとまとめあげてほしい。
	到達目標 臨床心理学的研究技法の習得 修士論文の作成・執筆・最終発表	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	修士論文デザイン検討 (1) テーマの論点と背景理論	
	3	修士論文デザイン検討 (2) 研究方法	
	4	修士論文デザイン検討 (3) 倫理的配慮と研究責任	
	5	修士論文デザイン検討 (4) 臨床心理学的意義	
	6	集団討議 (1) 修士論文デザインに関する批判的検討	
	7	集団討議 (2) 修士論文デザインに関する建設的提言	
	8	集団討議 (3) 修士論文デザインに関する個別報告	
	9	データ収集報告 (1) データ収集の概要	
	10	データ収集報告 (2) データ収集の確認	
	11	データ収集報告 (3) データ収集の見直し	
	12	データ収集報告 (4) データ収集の再確認	
	13	データ収集報告 (5) 個別報告	
	14	集団討議 (4) データ収集に関する批判的検討	
	15	集団討議 (5) データ収集に関する建設的提言	
	16	集団討議 (6) データ収集に関する個別報告	
	17	データ分析報告 (1) データ分析の概要	
	18	データ分析報告 (2) データ分析の確認	
	19	データ分析報告 (3) データ分析の見直し	
	20	データ分析報告 (4) データ分析の再確認	
	21	データ分析報告 (5) 個別報告	
	22	集団討議 (7) データ分析に関する批判的検討	
	23	集団討議 (8) データ分析に関する建設的提言	
	24	論文執筆指導 (1) 執筆方法の概要	
	25	論文執筆指導 (2) 執筆計画の確認と見直し	
	26	論文執筆指導 (3) 進捗状況に応じた指導	
	27	論文執筆指導 (4) 個別報告	
	28	修士論文発表予演 (1) 発表の概要	
29	修士論文発表予演 (2) 発表の具体的準備		
30	修士論文発表予演 (3) 最終発表に向けての予行演習		
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に定めないが、各自の研究テーマにふさわしいものを随時紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確率すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価 発表内容、研究進行状況、討議参加への姿勢や発言などを総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 前年度までに「臨床心理学特殊研究ⅠB」を受講していることが前提である。 また、関連科目である「心理学研究法特論」「心理統計方特論」を履修しておくことが望ましい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特殊研究ⅡA	通年	金7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 修士論文を完成させることを通して、データ収集法、データ収集における倫理的配慮、データ整理、統計的手法、論文執筆における科学論文の構成、引用の仕方等をマスターする。修士論文完成後の発表会の前には、リハーサルを行い、プレゼンテーションの仕方、学会発表の仕方を身につけることをねらいとする。	メッセージ
	到達目標 修士論文を完成し、修士論文最終発表にては発表する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	修士論文進捗状況（先行研究） 発表	
	2	”	
	3	”	
	4	”	
	5	修士論文進捗状況（方法・対象者） 発表	
	6	”	
	7	”	
	8	”	
	9	修士論文進捗状況（データ収集） 発表	
	10	”	
	11	”	
	12	”	
	13	修士論文進捗状況（データ分析） 発表	
	14	”	
	15	”	
	16	”	
	17	”	
	18	修士論文進捗状況（考察） 発表	
	19	”	
	20	”	
	21	”	
	22	”	
	23	”	
	24	”	
	25	”	
	26	修士論文完成版 発表	
	27	”	
	28	”	
29	修士論文発表会 予演		
30	”		
31	”		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など APA論文作成マニュアル アメリカ心理学会著 江藤裕之他訳 医学書院</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
評価	<p>提出された論文の内容から評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

※ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシー「臨床心理査定・臨床面接・臨床心理学的地域援助・臨床心理学的研究等の技能を高める」基礎科目に相当。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特論Ⅰ	前期	月7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	1年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 臨床心理士を目指す学生の土台となる講義であり、臨床心理学の定義や歴史、日本・諸外国における臨床心理士資格制度、臨床心理学に基づく人間理解・援助の方法、さらに、今後の展望や倫理問題などについて学ぶ。	メッセージ 人間福祉専攻臨床心理学領域で学ぶための最も基礎となる科目であることを踏まえ、柔軟な発想を持ちつつ、堅実に学んでほしい。
	到達目標 臨床心理学の定義・歴史・資格制度・倫理に関する専門的知識を得る。 臨床心理学に基づく人間理解・支援の方法に関する基礎的知識を修得する。	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回～第2回 : 臨床心理学の定義と独自性 第3回～第4回 : 臨床心理学の歴史と成立 第5回～第6回 : 臨床心理士の養成と課題 第7回～第8回 : 臨床心理学における人間理解の方法 第9回～第10回 : 臨床心理学に基づく援助の方法 第11回～第12回 : 臨床心理学に基づく実践活動・研究活動・専門活動 第13回～第14回 : 臨床心理士の職業倫理 第15回～第16回 : 臨床心理学の課題と展望</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>下山晴彦（著）「これからの臨床心理学」東京大学出版会 大塚義孝（編）臨床心理学全書1「臨床心理学原論」誠信書房 下山晴彦・丹野義彦（編）講座臨床心理学1「臨床心理学とは何か」東京大学出版会</p>

学びの実践	
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確立すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>討論への参加態度や発言内容、提出されたレポート等から総合的に評価する。評価方法については、講義初日に詳細に説明する。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門的知識・技能を高めてゆくために、引き続き「臨床心理学特論Ⅱ」を履修すること。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学特論Ⅱ	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1年	平山篤史 atsushi@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	臨床心理支援の対象者の理解とそれぞれに対する支援について基本的考え方、理論を習得する。	様々なクライアントに対する臨床心理学・心理学の知見に基づく理解と支援の基本的考え方について学びます。		
学びの実践	到達目標			
	臨床心理学的人間理解ができる。 学内外の実習においてクライアントに対する臨床心理学・心理学的観点から見立てや支援方針を考えることができる。			
学びの継続	学びのヒント	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）		
		第1回 : オリエンテーション 第2回 : 臨床心理学的支援の独自性 第3回～第5回 : 不安を抱えるクライアントの理解と心理臨床的支援 第6回～第8回 : うつ・抑うつを抱えるクライアント理解と心理臨床的支援 第9回～第11回 : 統合失調症を抱えるクライアント理解と心理臨床的支援 第12回～第14回 : ストレスマネジメント 第15回 : 臨床心理学の定義と独自性		
		テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する		
		学びの手立て 臨床心理領域で設定されているそれぞれの科目を学内外の実習と結び付け、常に実践を意識して学んでほしい。		
	評価	①ディスカッションへの取り組み方 ②リフレクションシート・課題の提出状況 ③調べ学習の発表 を総合的に判断し評価する。		
	次のステージ・関連科目	臨床心理学領域の領域必修科目、選択科目、学内外の実習につながる。		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理基礎実習	通年	火6・7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・野村 れいか	1年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学内外での臨床心理実習を行う為に必要となる、心理臨床の倫理や、臨床心理面接、臨床心理査定などの基礎的知識と基礎的技能の習得を目的とする。ロールプレイング、ディスカッションを通して体験的に学習する。	メッセージ ディスカッションやロールプレイングを通して、心理臨床実践の基礎を身につけます。臨床実践の力は、話を聞くだけでは身につけません。主体的に、積極的にディスカッションや実習、課題に取り組んで下さい。臨床の実践家としてクリアすべき課題がこの講義を通して見つかるかもしれません。まずはそれに向き合い、受け入れることからスタートです。
	到達目標 ①心理臨床実践における倫理的態度を身につける。 ②マイクロカウンセリングの基本的かかわり技法を用いて面接ができる。 ③インテーク報告書が書ける。 ④スーパーバイザーや教員を使って自分自身や自分の面接を振り返ることができる。 ⑤これまで学んできた知識や経験をもとにしてディスカッションで自分の意見を述べるることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	2	心理臨床実践の基本事項①倫理1	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	3	心理臨床実践の基本事項②倫理2	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	4	心理臨床実践の基本事項③倫理3	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	5	心理臨床実践の基本事項④面接構造	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	6	心理臨床実践の基本事項⑤スーパーヴィジョンとその活用	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	7	心理臨床の面接の基本的態度	リフレクションシート作成
	8	心理臨床面接の応答技法①関わり行動	配布資料の復習
	9	関わり行動のロールプレイング	リフレクションシート作成
	10	心理臨床面接の応答技法②開かれた質問・閉ざされた質問	配布資料の復習
	11	開かれた質問・閉ざされた質問のロールプレイング	リフレクションシート作成
	12	心理臨床面接の応答技法③はげまし・いいかえ	配布資料の復習
	13	はげまし・いいかえのロールプレイング	リフレクションシート作成
	14	心理臨床面接の応答技法④感情の反映	配布資料の復習
	15	感情の反映のロールプレイング	リフレクションシート作成
	16	心理臨床面接の応答技法⑤要約	配布資料の復習
	17	要約のロールプレイング	リフレクションシート作成
	18	試行カウンセリング①	リフレクションシート作成
	19	試行カウンセリング②	リフレクションシート作成
	20	インテーク面接について	配布資料の復習
	21	インテーク面接の基本的事項	配布資料の復習
	22	インテーク面接の基本的事項	配布資料の復習
	23	インテーク面接ロールプレイング①	リフレクションシート作成
	24	インテーク面接ロールプレイング②	リフレクションシート作成
	25	インテーク面接ロールプレイング③	リフレクションシート作成
	26	見立てと方針・ケースフォーミュレーション①	課題・配布資料の復習
	27	見立てと方針・ケースフォーミュレーション②	課題・配布資料の復習
	28	見立てと方針・ケースフォーミュレーション③	課題・配布資料の復習
	29	事例検討①	リフレクションシート作成
30	事例検討②	リフレクションシート作成	
31	まとめ	まとめのレポート	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する 適宜紹介する</p>
	<p>学びの手立て 心理臨床実践の学びのためには、自分の認知・行動・感情を振り返り、言語化して表現するトレーニングが必要とされる。その際、乗り越えなければならない自分自身の課題も見つかると思うが、それに向き合い続けなければならない。心理的負担を伴う作業ではあるが、スーパーバイザーや教員を使い、支えを得ながら、取り組んでほしい。 学部講義のようにいくらまじめに取り組んでいても、受け身的な態度では実践力は身につかない。積極的に発言し、行動し、多くの経験を積んでほしい。</p>
	<p>評価 ①ディスカッション・ロールプレイング実習への取り組み方 ②リフレクションシート・課題の提出状況 ③学外の実習評価 を総合的に判断し評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 「臨床心理実習」や附属心理相談室のケース陪席、ケース担当、学外のボランティア活動などで学んだことを実践し、常に振り返りを行う。</p>

※ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシー「臨床心理査定・臨床面接・臨床心理学的地域援助・臨床心理学的研究の技能を高める」基礎科目に相当。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理査定演習	後期	月7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	1年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	臨床心理査定の専門技法である心理検査のうち、主に投映法を取り上げ、適切な実施方法、結果の整理、分析・解釈等について体験的に学ぶ。その上で、所見や報告書の書き方、テストバッテリーの組み方、心理的援助に結びつく査定のあり方等について総合的に学習する。	基礎的な心理査定技法（心理的アセスメント）については、修得していることを前提で授業を進めるので、復習しておくこと。また、指定された課題は必ず予習して臨むこと。
到達目標	投映法心理検査の実施、解釈、所見・報告書の作成に必要な専門的知識と技能を身につける。心理的援助に役立つ臨床心理査定を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床心理査定概論	授業の予復習
	2	心理面接等による臨床心理査定	授業の予復習
	3	心理検査による臨床心理査定（主に投映法について）	授業の予復習
	4	心理検査Ⅰ-① 投映法心理検査（描画） 実施方法と理論的背景	検査の分析
	5	心理検査Ⅰ-② 投映法心理検査（描画） 結果のまとめと解釈	結果のまとめ作成
	6	心理検査Ⅰ-③ 投映法心理検査（描画） 所見と心理的援助	レポート（所見・報告書）作成
	7	心理検査Ⅱ-① 投映法心理検査（TAT） 実施方法と理論的背景	検査の分析
	8	心理検査Ⅱ-② 投映法心理検査（TAT） 結果のまとめと解釈	結果のまとめ作成
	9	心理検査Ⅱ-③ 投映法心理検査（TAT） 所見と心理的援助	レポート（所見・報告書）作成
	10	心理検査Ⅲ-① 投映法心理検査（ロールシャッハ） 実施方法と理論的背景	検査の採点・分析
	11	心理検査Ⅲ-② 投映法心理検査（ロールシャッハ） 結果のまとめと解釈	結果のまとめ作成
	12	心理検査Ⅲ-③ 投映法心理検査（ロールシャッハ） 所見と心理的援助	レポート（所見・報告書）作成
	13	臨床心理査定の実際① テストバッテリー	授業の予復習
14	臨床心理査定の実際② 総合所見の書き方	授業の予復習	
15	臨床心理査定の実際③ 心理検査を活用した心理的支援	授業の予復習	
16	最終課題レポート作成・提出	最終課題レポート作成	
テキスト・参考文献・資料など	授業の中で紹介する。		
学びの手立て	基礎的な心理査定技法（心理的アセスメント）は修得していることを前提で授業を進める。指定された課題は必ず仕上げてから授業に臨むこと。		
評価	討論への参加態度や発言内容、提出されたレポート等を総合的に評価する。評価方法については、授業の初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は「心理的アセスメントに関する理論と実践」であり、必ず履修すること。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理実習	通年	火6・7	0
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦・井村 弘子	2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 本実習では、臨床心理学基礎実習の学習成果をふまえ、学内外での心理臨床活動の実際に触れながら、地域に根ざした心理臨床活動を展開するために必要な実践的知識や技法の習得をめざす。	メッセージ 毎週の学外実習と実習報告には、かなり時間とエネルギーを必要とする。体調管理も行いながら年間取り組むこと。
	到達目標 臨床心理学的な人間理解と援助方法を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床心理基礎実習で修得した面接技法などについて確認し、学外での実習に向けた演習を行う。	学外での実習
	2	〃	〃
	3	〃	〃
	4	〃	〃
	5	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	〃
	6	〃	〃
	7	〃	〃
	8	〃	〃
	9	〃	〃
	10	〃	〃
	11	〃	〃
	12	〃	〃
	13	〃	〃
	14	〃	〃
	15	〃	〃
	16	前期の実習を振り返り、後期の実習課題を検討する。	〃
	17	〃	〃
	18	実習施設担当者による「心理臨床の現場と臨床心理士の役割と活動」に関する講義	〃
	19	〃	〃
	20	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	〃
	21	〃	〃
	22	〃	〃
	23	〃	〃
	24	〃	〃
	25	〃	〃
	26	〃	〃
	27	〃	〃
	28	〃	〃
	29	〃	〃
30	〃	〃	
31			

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	<p>評価</p> <p>毎回の実習記録と学外実習担当者の評価をもとに総合的に評価する</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>授業において、随時紹介する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理実習 A	通年	水 7	0
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子・野村 れいか	1年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門的心理職を目指す学生の土台となる科目であり、一つ一つの事例を様々な視点から検討することを通して、心理的問題を抱える人の生育史、特性、人間関係、環境に応じた心理的支援の理解と援助技術を身につける。</p>	<p>生の事例に触れる体験を積み重ねることで、臨床心理学的支援の実際を学んでほしい。守秘義務の重要性についても学ぶこと。</p>
	到達目標	
	来談者の個別性とニーズを理解し、ケースに応じて適切な援助を柔軟に展開できるようになることが目標である。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (前半)	
	2	事例検討①	事例報告資料の作成
	3	事例検討②	事例報告資料の作成
	4	事例検討③	事例報告資料の作成
	5	事例検討④	事例報告資料の作成
	6	事例検討⑤	事例報告資料の作成
	7	事例検討⑥	事例報告資料の作成
	8	事例検討⑦	事例報告資料の作成
	9	事例検討⑧	事例報告資料の作成
	10	事例検討⑨	事例報告資料の作成
	11	事例検討⑩	事例報告資料の作成
	12	事例検討⑪	事例報告資料の作成
	13	事例検討⑫	事例報告資料の作成
	14	事例検討⑬	事例報告資料の作成
	15	中間まとめ	
	16	オリエンテーション (後半)	
	17	事例検討⑭	事例報告資料の作成
	18	事例検討⑮	事例報告資料の作成
	19	事例検討⑯	事例報告資料の作成
	20	事例検討⑰	事例報告資料の作成
	21	事例検討⑱	事例報告資料の作成
	22	事例検討⑲	事例報告資料の作成
	23	事例検討⑳	事例報告資料の作成
	24	事例検討㉑	事例報告資料の作成
	25	事例検討㉒	事例報告資料の作成
	26	事例検討㉓	事例報告資料の作成
	27	事例検討㉔	事例報告資料の作成
	28	事例検討㉕	事例報告資料の作成
29	事例検討㉖	事例報告資料の作成	
30	まとめ		
31			

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 毎回配する事例に関する資料を教材とする。 参考文献は適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て 綱に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確立すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価 心理相談室で陪席または面接を担当した事例を発表することが単位認定の条件となる。 2年で3ケース以上の面接を担当することが望ましい。 授業態度、事例報告書の内容と発表、報告に対するコメント等を総合的に判断して評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 臨床心理実習Aと臨床心理実習Bが毎年交互に開講される。 学生は、大学院在籍期間中に、臨床心理実習A及び臨床心理実習Bの両方を必ず履修すること。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理面接特論Ⅱ	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 近年世界的に最も用いられることが多い認知行動療法に関わる面接技法を中心に学習する。また精神分析的アプローチ、クライアント中心療法などの各派との違いと各派に共通するものを探り、最近の流れである心理療法の統合について理解していく。	メッセージ 毎回、積極的に質問・コメントをすること。
	到達目標 将来出会うであろう様々なクライアントに対して、最も有効なアプローチ法を見出せるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の復習
	2	認知行動療法の基礎としての学習・問題行動・不適応行動	配布資料の復習
	3	行動療法の主な技法：系統的脱感作、曝露反応妨害法、応用行動分析	配布資料の復習
	4	認知行動療法基礎理論、抑鬱に対する認知行動療法①	配布資料の復習
	5	抑鬱に対する認知行動療法②	配布資料の復習
	6	” ③	配布資料の復習
	7	” ④	配布資料の復習
	8	” ⑤	配布資料の復習
9	他のアプローチとの比較：来談者中心療法	配布資料の復習	
10	” : 精神力動的アプローチ	配布資料の復習	
11	” : システムズ・アプローチ	配布資料の復習	
12	” : 折衷的アプローチ	配布資料の復習	
13	” : 動機づけ面接法	配布資料の復習	
14	慢性疾患、視覚障害者、高次脳機能障害者に対するアプローチ	配布資料の復習	
15	心理療法の統合：多理論統合モデル	配布資料の復習	
16	レポート		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献： 「心理療法の諸システム 多理論統合的分析」 プロチャスカ著 津田彰他監訳 金子書房 2010 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」上田幸彦著 風間書房 2011 「高次脳機能障害のための認知リハビリテーション」 ソールバーク・マティアー著 尾関誠・上田幸彦監訳 協同医書出版社 2012		
	学びの手立て		
	評価 毎回の講義でのディスカッションへの参加状況とレポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理実践実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	老年健康科学特論	通年	水5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	1年		

学びの準備	ねらい 本授業は、健康・疾病および加齢に関する項目について学ぶことを目的とする。健康管理システムにおけるソーシャルワークの役割、健康と加齢に関する社会的要因、高齢者がもたらす社会経済的影響に対する政策について学ぶ。主に、健康増進とリスク除去の方策のほか、健康維持アプローチと高齢者特有の健康問題にも焦点を当てる。授業で扱うテーマとして以下5点を設定する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	
	2	健康長寿(Healthy Aging)の定義	
	3	健康長寿とソーシャルワーク	
	4	地域における保健活動と健康長寿	
	5	高齢者の健康に関わる社会的要因	
	6	高齢者の疾病について	
	7	加齢に伴う身体的健康問題	
	8	加齢に伴う精神的健康問題	
	9	長期介護について	
	10	介護者のストレスと健康	
	11	終末期ケアについて	
	12	スピリチュアリティと健康	
	13	ソーシャルワーク実践	
	14	健康増進と予防について	
	15	前期のまとめ	
	16	後期オリエンテーション	
	17	文化および民族と健康	
	18	世界の社会的弱者の健康について	
	19	高齢者の健康政策のマクロ的影響	
	20	沖縄における長寿の課題1	
	21	沖縄における長寿の課題2	
	22	沖縄における長寿の課題3	
	23	沖縄における長寿の課題4	
	24	沖縄における長寿の課題5	
	25	世界の健康長寿の課題1	
	26	世界の健康長寿の課題2	
	27	世界の健康長寿の課題3	
	28	世界の健康長寿の課題4	
	29	世界の健康長寿の課題5	
30	後期のまとめ		
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて資料を配布する。 近藤克典『健康格差社会～何が心と健康を蝕むのか～』医学書院, 2005. Berkman B. 『Handbook of Social Work in Health and Aging』Oxford Univ Press, 2006. その他、適宜、論文等を紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <p>出席・クラス討論・授業内での発表内容・授業終了時のレポートの内容。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>